

JSCE2010

— 社会と世界に活かそう土木学会の技術力・人間力 —

2008年5月

 **JSCE** 社団法人 土木学会
JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS

はじめに

土木学会は、土木工学の進歩および土木事業の発達ならびに土木技術者の資質の向上を図り、もって学術文化の進展と社会の発展に寄与することを目的としています（定款第4条）。その目的を達成するために、学会が5年ごとに策定している活動目標と行動計画（アクションプラン）が「JSCE20XX」です。

第1回目は、「JSCE2000」として、1998年に策定されました。当時は、21世紀に向けて社会のあらゆる分野においてパラダイムの転換が求められていた時であり、1998年版の「土木学会の改革策」として取りまとめられました。そこでは先ず、工学系の学会が有すべき機能と役割を明示し、次いでそれらを十分に果たし得る体制の確立を目指して、学会改革のための課題と各部門の具体的な取り組みを提示し、各部門の活動の指針としました。これ以降、土木学会の活動目標と行動計画をJSCE20XXシリーズとして定期的に策定することにしました。

第2回目は、新たな改革策「JSCE2005」を2003年に策定しました。土木学会を取り巻く様々な問題が顕在化してきたことを踏まえ、問題解決能力を持った学会への転換を目指して、(1)社会とのコミュニケーション機能および土木技術・社会資本のあり方に関する回答機能の確立、(2)会員および学会内部の部門間のコミュニケーション機能の強化、(3)学会内各部門の具体的な目標設定とマネジメントサイクルの導入による効率的で効果的な学会運営、を大きな目標として学会の継続的な改革を行うことにしました。

今回の「JSCE2010」は、世界・日本・土木界・土木技術者・土木学会の視点から、土木を取り巻く現状を再認識し、土木界における共通の課題を整理・集約するとともに、土木学会がとるべき行動の重点課題を設定しています。そして、JSCE2005の中間評価結果を反映して、4項目の重点目標、すなわち、(1)地球温暖化対策等分野横断的、総合的課題解決への積極的取り組み、(2)公正な立場からの専門的知見の提供、(3)技術者支援、(4)学会運営の適正化・効率化と分かりやすさの向上、を定め、行動計画の狙いとしています。このJSCE2010は、「社会と世界に活かそう土木学会の技術力・人間力」を表題としており、土木学会の3つの使命と具備すべき9つの機能を明示し、それぞれに対して、10年後の「基本目標」と2008年から2012年までの5年間における「2010目標」、および学会内各部門の行動計画を設定しています。

JSCE2010の策定に際しては、企画委員会にWGを設置し、先ず、JSCE2005の中間評価を踏まえ、学会内各部門の意見や方針を聴取するとともに、外部有識者や他学協会を対象としたヒアリングを実施して中間案を作成しました。次いで、この中間案に対して、外部有識者を招いた全国大会研究討論会の実施、WEBを通じた会員の意見、各支部の意見、学会内各部門の意見を聴取し、さらに学会誌での意見照会を行って原案を作成し、企画委員会、運営会議、理事会での審議を経て2008年5月に策定しました。

JSCE2010は、5年ごとに策定される土木学会の活動目標と行動計画です。このJSCE2010では、活動の継続性を確保する立場から、目標年次を10年後として、「基本目標」を設定しています。また、行動計画の期間を2008年から2012年までの5年間とし、その間の目標を「2010目標」としています。各年度の事業の実施に際しては、各部門が年度毎に具体的な事業計画を立案・実行し、その成果を自己評価し、次年度の事業評価に反映するマネジメントシステムによって管理することにしています。

土木学会

運営会議議長 土木学会会長 石井 弓夫
企画部門主査理事 企画委員会委員長 落合 英俊